



発行責任者

校長 石原 優子

教頭先生より

「自分の感受性くらい」

昔々、S高校に国語科のA先生がいた。A先生の授業では、必ず「自分の感受性くらい」が紹介される。

約20年後、教員となった私が勤める学校に、A先生が教頭先生として赴任してきた。A先生は1クラスだけ授業をすることになり、私の担任するクラスが(たぶん意図的に)選ばれた。

3月、A先生の転勤が決まったある日、「今度の授業が最後やけん、お前も見に来い」と誘われた。(ちなみにA先生は、立場上今後教壇には立たないことが分かっていました。)

そして最後の授業当日、題材は「自分の感受性くらい」だった。

あの日以来、この詩を伝えていくことが、自分の使命だと勝手に思い込み、自分が担任するクラスで、授業に行くクラスで、目の前の生徒に紹介している。そして、この詩から何かを感じた生徒たちが、次の世代に伝えてくれることを密かに願っている。

「自分の感受性くらい」
茨木のり子

ばさばさにかわいていく心を
ひとのせいにはするな
みずから水やりを怠っておいて
気難しくなってきたのを
友人のせいにはするな
しなやかさを失ったのはどちらなのか
苛立つのを
近親のせいにはするな
何もかも下手だったのはわたくし
初心消えかかるのを
暮らしのせいにはするな
そもそもが ひよかな志にすぎなかった
駄目なことの一切を
時代のせいにはするな
わずかに光る尊厳の放棄
自分の感受性くらい
自分で守れば
かものよ

部活動結果報告

○令和7年度長崎県高等学校総合体育大会
駅伝

男子 6位

女子 9位

○令和7年度長崎県高等学校新人体育大会
【陸上】

男子 400mH 第1位 戸川 良汰

110mH 第2位 戸川 良汰

女子 ハンマー投 第2位 高橋 涼子

2名は九州大会へ出場

【柔道】

男子団体 第3位

男子個人 81kg級 第2位 平山 文明

100kg超級 第2位 眞弓 紀慶

女子団体 第3位

女子個人 63kg級 第1位 城山 舞佳

第2位 三浦 梨子

男女団体、個人の4名は九州大会出場

○令和7年度長崎県高等学校総合文化祭

【美術部門】第56回長崎県高等学校美術展

優秀賞 大貝 知弘

優良賞 亀山 陽向

亀山は九州大会選出

【百人一首かるた部門】第24回百人一首かるた競技選手権大会

団体戦 優勝

個人戦 優勝 野口 美咲

準優秀 田口 凌大

第3位 小村 蓮華 出口 陽菜子

第4位 森山 由彩

個人5名は九州大会へ出場

バラモン発表会

11月7日(金)午後、本校体育館メインアリーナにて、2学年のバラモンプラン発表会を開催しました。例年はステージ発表とポスター発表を行っていましたが、今年は全ての班がポスターで発表を行いました。発表には、来賓の皆様をはじめ、保護者等のや2年生がお世話になった地域の方々に来ていただきました。

2年生の探究活動はここで一区切りとなります。発表を見た1年生には、これからの探究活動により一層励んでもらいたいと思います。

各賞受賞班

最優秀賞：猪肉同好会(ジビエを身近に)

優秀賞：バター醤油ポップコーン(シャッターアート)

// :A piece of cake(英語教育)

校長賞：猪肉同好会(ジビエを身近に)

教頭賞：book warms(本で五島を広める)

研修図書班長賞：バター醤油ポップコーン(シャッターアート)



11月1日は、本校の創立記念日でした。

以下、「創立記念日に寄せて」より一部抜粋

本校の歴史は、明治33年、当時の五島家当主、五島盛光公が「万国が交流を深め、発展していこうとするときに、学問をなさなければ、文明の民とはなりえない」との思いを持って、自ら旧福江城(石田城)を校舎敷地として、県へ寄贈され、旧制五島中学校が設立されたことに始まります。(中略)

今、五島高校に集う全員が、さらなる学校の発展に寄与していきましょう。

今月の行事予定表など、学校の最新情報を五島高校ホームページに掲載しております。ぜひご覧ください。

URL <http://www2.news.ed.jp/section/goto-h/>



11月4日（火） 人生の達人セミナー

今年度は奈留出身の作家・馳月基矢（はせつきもとや）先生を講師としてお迎えし、「小説家という仕事について」という演題でご講演いただきました。デビュー作誕生のきっかけや出版社・担当者とのやりとり、小説の執筆以外に取り組まれている「科学の楽しさ」を伝える活動や朗読劇など、多岐にわたる内容を聞くことができ、大変充実した会になりました。質疑応答の中で「高校生のうちにやっておいたほうがよかったことは？」という質問があり、それに対して「とにかくやるべきことは全部やって自分の時間を捻出していた」「高校時代無駄だと思っていたことが今の自分の仕事に直結している。何がどうつながるかかわからないので、無駄なことはない」という回答をいただき、その場にいた全員身が引き締まる思いでした。

今回の講演会で得たものをそれぞれが糧にできればと思います。

【生徒感想】

私は馳月さんの自分の好きなものを追求する力に刺激をもらった。「行き詰ってもとにかく手を動かす」という言葉が特に印象に残っている。これは今の私にも当てはまることだと思った。受験勉強で不安を抱えながらの日々だけど、とにかく頭を使って勉強して進み続けたから、馳月さんがおっしゃっていたように、高校時代の勉強を頑張ったという苦しい経験が、後の自分の自信となるのだと思った。今はきついかもかもしれないが、この経験は未来への自己投資だと思って今を全力で生きようと思った。また、社会への貢献の仕方は人それぞれで、自分にしかできないことで貢献すればよいのだとも感じた。馳月さんは小説で人々に伝えるということで、石川県輪島の被災した現状を伝えることで貢献していたが、私は違った角度から社会に貢献できるよう、また私が貢献できる分野は何なのかを自分で知るためにも大学に就いて学びたいと思う。

【生徒感想】

今日のお話を聞いて、小説家や小説に対するイメージが大きく変わりました。今まで小説家は自分の書きたい話を書いて、編集者はその原稿を預かって表紙やデザインや校閲をしてくれる人に渡す、本を出版すること、は一直線なイメージでした。しかし、一直線というよりは、ひとつの原稿をみんなで本にするという方が正しいとわかりました。小説を読む時にはこのことを思い出そうと思いました。また、様々なことを経験することの大切さも学ぶことができました。馳月先生のデビュー作「姉上は麗しき名医」は大学時代の漢文の翻訳のバイトという経験が繋がっていたり、ピカリ科学のメンバーであることが歌詞の監修につながっていたりしたことが心に残っています。私も勉強としたいことのバランスをとりながら、たくさんのことを経験したいと思いました。



11月12日（木）芸術鑑賞会

本校と五島海陽高校の合同で芸術鑑賞会が行われ、日本の伝統芸能である「寄席」を鑑賞しました。今回の鑑賞会では、寄席入門に始まり、江戸落語や上方落語、さらに色物まで幅広い演目が披露されました。古典落語「転失気（てんしき）」など様々な演目が披露され、巧みな語り口とテンポの良さに会場がたびたび笑いに包まれました。また、こま回しの色物のステージでは、両校の生徒が実際に舞台に参加し、見事なパフォーマンスで観客を大いに沸かせました。日本の話芸や芸の魅力を身近に感じる事ができた、有意義な時間となりました。



令和7年度「税に関する高校生の作文」受賞者

法人会会長賞 『高校生活の無償化』 1年4組中村吟歌
九州北部税理士会会長賞 『未来を担う税の役割』 1年4組橋本隼毅
間税会会長賞 『防衛費増額とその影響について』 1年5組井川大暉



准看護師試験100日前集会

11月4日（火）准看護師試験100日前集会が開催され、学年主任の下釜先生をはじめ、1・2年生の代表生徒など多くの方から激励の言葉をいただきました。

3年生代表の前田愁花さんからは、「今の私たちには、学習に対する気持ちと危機感がまだ十分に足りない。専門性の高度化と業務の複雑化に耐える力を身に付けるためにも、看護学生のうちから学習を積み重ねることはとても大事である。私たちの進路実現にあたり様々な面から手厚いご指導やサポートを下さっている先生方、いつも支えてくれる家族、実習を受け入れ、指導して下さい下さった五島中央病院のスタッフの方々、患者様への感謝の気持ちを忘れず、資格試験全員合格という1つの目標に向けクラス全員が同じ気持ちで精一杯勉学に励みたい。」という決意表明がありました。3年生にとって資格試験に向けて気持ちを改め、最後まで頑張り抜くための原動力となる集会となりました。



下五島地区PTA研修会

本校のメモリアルホールにて、下五島地区公立高等学校・特別支援学校PTA研修会が行われました。本校からは、36名の保護者等の方々や教職員が参加しました。学校法人九州総合学院五島日本語学校長の山上福範氏をお迎えし、『えっ、なんで五島に日本語学校？～実は 一大 若者 人財 バンク～』という演題で、講演をしていただきました。また、ながさきファミリープログラムでは『思春期の心と体の発達について、上手な関わり方について』と題して参加者をグループに分け、「家での我が子の様子で気がかりなこと」などについて意見交換を交えながら話し合いました。参加者同士で子育ての話を共有でき、充実した研修となりました。

